

支持政党なし TOKYO

良識ある保守主義・情報公開
若い世代の育成に全力をささげる

都民代表:吉田つとむ(町田市議)

<編集発行>

支持政党なし TOKYO
〒194-0011 町田市
成瀬が丘 1-14-12
サンホワイト E103-13
自宅 042-795-7361
FAX 042-795-2726
yoshidaben@gmail.com



インターンシップ好評
若者育成・就業支援

緊急事態宣言の延長と税の使途

支持政党なし TOKYO 自治宣言

10都府県の緊急事態宣言が延長になりました。大方の方々の生活は一般には平穏と思われていますが、明らかに統計上の消費額が減り、過半数以上の人の収入が目減りしているに違いないと感じるということで、苦難の世情が反映されているものです。

私は、その対策とその解消には消費税をゼロ%にして、経済活動を全般的に下支えするのが最も原則的、確実性の高い政策だと思っています。



対照的な方法は、行政が飲食業界に休業を求めたことでその直接対象事業者に協力金(1日に6万円)を出し、それが一部には補助的なレベルではなく、通常営業以上になる金額を補填し続けていることです。大半の人が我慢を強いられている時に、働かない方がお金になること、何も努力しないことがお金になるという信じがたい手段を実行し、それをノーチェックで継続しています。今回、先に協力金を手にした人が得と言う悪い経済ルールを使ってしまった副作業は、少なからぬ人にまじめに働く意欲を減少させたことでしょう。

オリンピックを中止しよう!④

新型コロナ感染の懸念から、オリンピックの開催は難しかろうという考えが、国民の多数みられるようになってきました。東京都はオリンピックの開催を至上命題とするために、この間は必死で感染数を抑えることに取り組んでいます。

そうした時に、元総理の森五輪会長が、オリの開催はコロナの感染にどうあろうとも実行すると言う趣旨を述べ、これからの時期にコロナの感染拡大防止や減少が重要だという世間の関心と大きな離れがあることが出てきました。さらに、森五輪会長は、聖火リレーの実施について、「有名人が(人がいない、集まらない)田んぼを走れば良い」と言い、「ロンドンブーツ1号2号」の田村淳さんは、自分の言葉をユーチューブ上で発信し、出場辞退を表明しました。勇気ある第一声でした。

森五輪会長は、理事会の発言で「女性は話が長いから、発言の時間請願がされるべきだ」と批判したことで女性蔑視とされることはもちろん、自身はその女性批判をした日の挨拶で、40分の挨拶を行ったというのですから、本心で理事会に女性を入れたくないのでしょう。ただし、その言葉が撤回されたとして、IOCは平穩無事に開催できる商売的な視点でしか見ていません。これらの点からも、オリンピックの開催は見合わせるのが、万事に相応すると持っています。



★「支持政党なし TOKYO」は、支持政党を持たない、持ちたくない人の意見を代弁します。
★「良識ある保守主義」は、権威を否定し、柔らかな思考にもとづいて議論をする立場です。

支持政党なし TOKYO

良識ある保守主義・情報公開
若い世代の育成に全力をささげる
都民代表:吉田つとむ(町田市議)



ブログ 個人HP



メールは
左記を誦込
して送信



インターン生募集中
社会見学・体験勉強

「支持政党なし」の説明①

無党派層と支持政党なしの共通点、相違点

「無所属」と言う言葉は、政党に所属していない政治家と、選挙に政党の公認を受けずに立候補した時の政治家の双方に使われています。政治家ではない一般の人の場合は、特定政党を決めていない人々をメディアでは「無党派層」と呼んでいます。この人たちは選挙結果に最も重要な影響を与えるもので、社会状況によって、支持する政党を変えることがあるのが特徴です。政権交代の時に、特に大きな力を発揮してきました。

各地の議会に友人ができる



他方で、「支持政党なし」と言う言葉は、政治家ではない一般の人の場合に持いられてきました。ただし、この「支持政党なし」の人びとは、特定の選挙に際して、その時々判断で、思想の幅と生活感覚の許容基準を上下させ、政党の可否を決することに多大な影響を与えてきました。自分に似通った、あるいは代弁できると判断した政党に突然支持を切り替えるわけです。それでは、政治家が支持政党なし」と自称すると、政党に対抗するという意味合いが加わります。「支持政党なし」と言う言葉は外国語では non-sectarian となるようですが、古くから日本では、「ノンセクト」と呼ばれています。セクト=教条を否定するという積極的な意味を持ちます。(続く)

インターンシップの参加世代①

吉田つとむのインターンシップの参加世代は

町田市議会議員 吉田つとむのインターンシップの参加世代は、幅が広がっています。上は、大学院生が参加しています。特徴は、学問研究の一環と言うより、間もなく社会に出るに当たって、政治家のインターンシップに参加し、社会人との幅広い交流を行いたいという趣旨のものでした。学業はとても進んでいる特徴が出ていましたが、それで企業に入ってから、研究成果を発揮するか、できるかを考えてのことでした。順調に就職が決まり、元気に働いてくれていることです。新型コロナウイルスが広がって以降の状況は聞いていませんが、産業分野から推測するとより業務が多くなっていることでしょう。

また、大学4年生で研修を受けた学生もいます。2種類の学生が参加しましたが、大学院に進む前の学生は、もうすでに、社会人として活躍をしているところですが、資格をとってその才能を更に磨いています。うれしい成長です。また、4年生を迎えた学生は、就活時期にインターンシップに来た学生がいました。決めるチャンスを逸したという状況でした。その翌年には、企業の就職が叶っていますので、これからは50年近く働く時代なので、1年の遅れは大勢に影響しないでしょう。



遠くの自治体まで
出かけ、中央省庁
出身の官僚に質問
をした研修の一日

- ★ 吉田つとむのインターンシップは1998年に開始、多数の体験者が実社会で活躍中。
- ★ インターン生に政治活動の参加は一切求めず、あくまで社会勉強・見学のメニューです。
- 昨年春以降の研修では、特別の記念撮影を除いて、行動中は全てマスクをかけています。